

# 製造から開発までを担う ホイールプレイヤー

Fornitore di ruote in alluminio dalla produzione allo sviluppo



O·Z RACING

オーゼットレーシング



パドヴァの郊外にある、OZ S.p.A. OZのヘッドオフィスだ。この地から世界中のOZファンへと製品が届けられる



本社内に工場も併設されている。SparcoやMSWブランド以外のOZ製品は、すべてここで製造される



## イタリアのプライド ここから世界へと発信

1971年に2人の男性によつてスタートしたOZ。

シルヴァーノ・オゼッラードーレ氏とピエトロ・ゼン氏、2人のイニシャルから取った社名が「OZ」だ。まずはMINIのアフターモールからスタート。84年にレーシングディビジョンを設立、アルファロメオでF1に参入。

1998年に、OZにとって重要なマーケットであるドイツのISO取得(ドイツ技術検査協会TUV)。イタリアの企業で、全体の製造サイクルにおいて認定を取得したのはOZが初めて。また「リングプロダクションシステム」を取り入れたことで、必要なものを、必要なときに、必要なだけ供給することが可能となつた。

2006年には、創業35周年を記念して、社内にミュージアムを作つた。次なる2021年の50周年へ向けて、さらにステップアップを図る。

もちろんファット、アバルトとの

繋がりも強く、アフターマーケットでもレースシーンでも、切つても切り離せない。かつてはアバルトA112のアフター用を作つていたし、最近だとトロフェオアバルトのシリーズにワンメイクでホイールを供給。アバルト



創業者シルヴァーノ・オゼッラードーレ氏とピエトロ・ゼン氏の名前を取って、オーゼットが生まれた。ヴェネチアの近く、ロッサーノ・ヴェネーネでスタート



歴代のOZロゴマーク。時代とともに変遷を重ねているのがわかる。もうじき、記念すべき創業50周年を迎える



Audi A4クワトロが愛車という、マーケティングマネージャーのLerrj Piazzaさんと、日本に留学経験のあるSigrid Bachmannさん。ありがとうございました！



1971年、最初の合金リムが作られ、MINIクーパーに装着された記念すべきモデル

1995には純正採用もされている。F1AT&アバルトでおすすめのホイールは、アイコニックな存在の「レジエンダ」。ホワイト、ブラックのカラーリングがある。そして18インチの「ウルトラレッジエーラ」で、F1AT500、アバルト500系問わず、とてもポピュラーな存在といえる。



O-Z RACING

## OZホイールの聖地。 すべてはここから 生まれる

1 これがアルミホイールの原料となるインゴットの状態。これを溶解し、モールディング→キャスティング→マシニングという工程を経て、製品化される 2 アルミの溶解炉。かなりの高温で熱するため、近寄るのが危険なほど。そのコンディション管理も重要な 3 このラックには、鋳造ホイールの金型がズラリと並ぶ。モデル名やスペックが書き込まれている 4 低圧の鋳造を行なう機器。溶解されたアルミ材の圧入、成型、冷却といった工程をコンピュータ制御で進めていく。冷却に要する時間も、ホイールによって異なる 5 回転させながら熱を加えることで、圧倒的な強度、剛性をプラスすることができる 6 「フローフォーミング製法」によって、薄く伸ばしていく 7 回転させながらドリルで削るなど、マシニングで細部を加工 8 9 エア漏れがないか、などの各テストを終えたら塗装の工程へ 10 11 粉体塗装、液体塗装という2工程によってペイントが進む 12 ここから世界中へと製品が届けられる！





1984年からレースフィールドに参戦。F1はアルファロメオのチーム供給が原点である。その後、WRC、DTM、インディなど、さまざまなカテゴリーで栄光を重ねてきた

OZでは、SPARCOとMSWのホイールもリリースしているが、イタリア本社で生産しているのは、OZの製品のみである



日本でもファンの多い、OZの代表モデル「ラリーレーシング」。時代を超えて、幅広い層から支持される



OZホイールとABARTHの関連性は、歴史が深く、強い。メーカー純正採用されるケースも多いのだ

メイド・イン・イタリーのプライドは、50周年へ向けてさらに磨きをかけていくことだろう。

ザーは、ハイクオリティや革新性を求めているようですが、もっとユーザーさんの声や意見も聞いてみたいですね」

インタビュー対応してくれたラリーピアザ氏に日本の印象を聞いてみたら、「日本やアメリカから、新しいファッションがヨーロッパに入ってくることが多い。だからOZにとって日本は重要な存在なのです。日本のユーチューバーは、ハイクオリティや革新性を求めているようですが、もっとユーザーさんの声や意見も聞いてみたいですね」



アバルト系へのおすすめモデルとしても挙がった、「ウルトラレッジェーラ」。マッチングの良さはいうまでもない



OZの創業35周年を記念して、本社内に設立されたミュージアム。残念ながら一般公開はされていないが、OZの歴史がよくわかる展示がいっぱい

1985年のアルファロメオF1を原点に、DTM、WRC、最近ではフォーミュラE、トロフェオアバルトなど、さまざまなカテゴリーのモータースポーツにホイールを供給。輝かしい成績を残してきたOZレーシング。

イタリア本社工場ですべての製品が作られ、70カ国以上に製品を輸出している。そのシェアでいくと、ドイツ、アメリカ、日本、イタリアの順番で日本も重要なマーケットのひとつだと認識している。日本限定カラー、限定サイズがリリースされるのも、そういう背景があるからこそ。

2021年の創立50周年に向けて、セールス、テクノロジーの両面で革新的背景があるからこそ。

1985年のアルファロメオF1を原点に、DTM、WRC、最近ではフォーミュラE、トロフェオアバルトなど、さまざまなカテゴリーのモーター

スポーツにホイールを供給。輝かしい成績を残してきたOZレーシング。イタリア本社工場ですべての製品が作られ、70カ国以上に製品を輸出している。そのシェアでいくと、ドイツ、アメリカ、日本、イタリアの順番で日本も重要なマーケットのひとつだと認識している。日本限定カラー、限定サイズがリリースされるのも、そういう背景があるからこそ。

2021年の創立50周年に向けて、セールス、テクノロジーの両面で革新的背景があるからこそ。